



# 大阪市港区 まちづくり ビジョン

令和5年4月

暮らして楽しい・遊んで楽しい・働いて楽しい  
「未来と世界にひらくまち・港区」



大阪市港区役所



## 【目次】

はじめに

第1章 区の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |

第2章 区の特性と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

1 少子高齢化

2 地域コミュニティ

3 まちの安全・安心

4 まちのにぎわい

第3章 区の将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 0

第4章 まちづくりの方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |

1 区民主体のまちづくり

2 安全・安心・快適なまちづくり

3 だれもが健やかにいきいきと暮らせるまちづくり

4 「まちぐるみで子育て」と「多様な学び」を応援するまちづくり

5 訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり

第5章 区民の意見を反映した区政運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4 |

## はじめに

### 未来と世界にひらくまち・港区の挑戦

大阪市港区は、令和5年現在、大きな変貌を遂げようとしています。

令和7年度の大阪・関西万博の開催に向けて、交通結節点であるJR弁天町駅の建替え、その周辺エリアの市有地も含めた開発が進捗しています。クルーズ船が停まる天保山客船ターミナルも建て替えられ、世界中の人を招き入れる港としての役割が大きくなります。

しかしながら、昭和40年には11万人を超えていた人口は減少の一途をたどり、現在は8万人弱、将来的な推計では「**2045年には6万人を切る**」という予測が出されています。このまま何もしなければ予測通りに、そこにコロナ禍で下がった出生率を考えると、さらに減少する可能性があります。その間にも高齢化は進み、地域福祉や防災の課題が生まれてきます。

この「港区まちづくりビジョン」は、人口減少を食い止め、将来予測を覆すために「令和5年4月から4年間」でやるべきことを示しています。

そして、さらなる目標を共有させてください。

### 「2045年に港区の人口が10万人を超えるように、 産官学+地域の力を結集して取り組む」

港区は戦争で焼け、2度の大型台風で壊滅的な被害を受けた中から何度も立ち上がってきた、レジリエンス（逆境からの回復力）を備えたまちです。また、世界に例のない規模の土地区画整理事業を成し遂げた、わがまち意識を高く持つ区民が支えてきたまちです。

暮らして楽しい・遊んで楽しい・働いて楽しい

「未来と世界にひらくまち・港区」が20年後も持続可能であるように。

港区に主体的に関わる人・団体・企業のみなさんと共に、尽力して参ります。

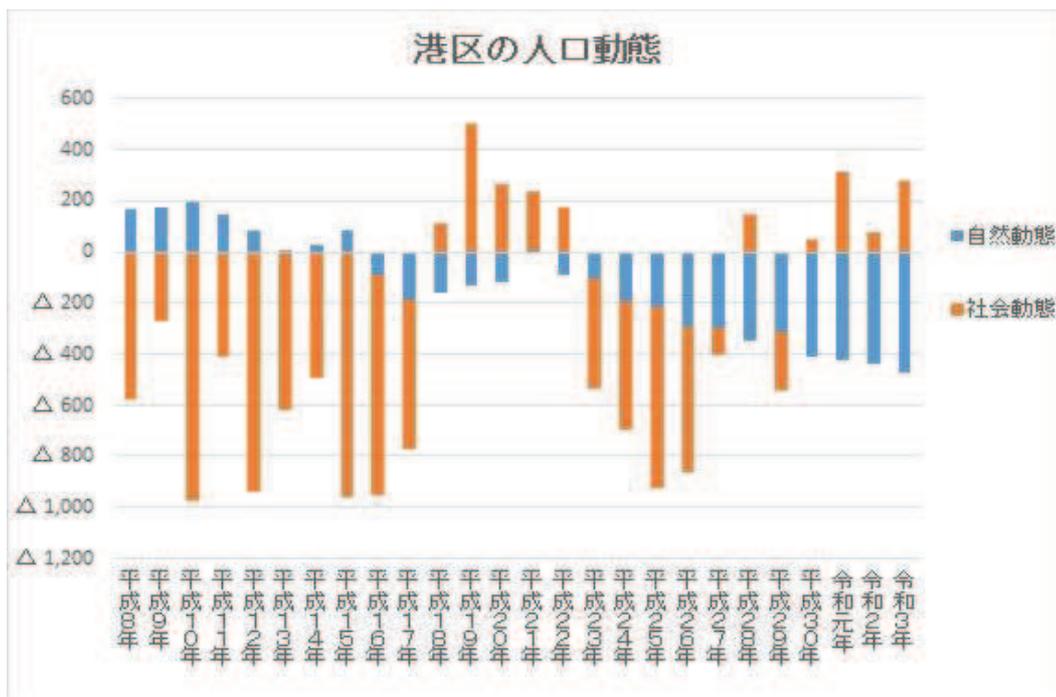
大阪市港区長 山口 照美

# 第1章 区の概況

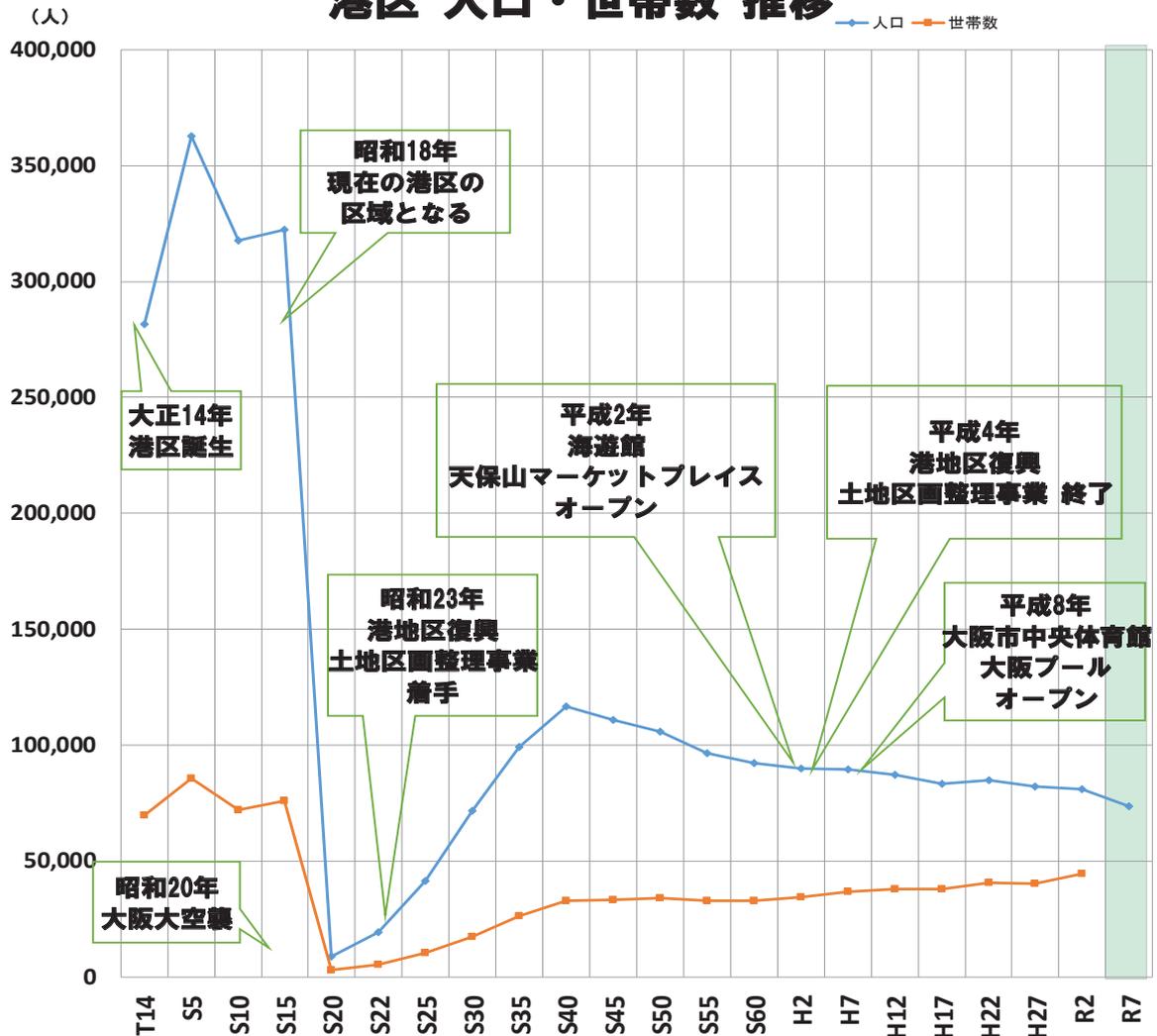
- ・港区は、大阪市の西側に位置し、三方を海と川で囲まれています。淀川（現在の安治川）の下流に位置し、川の浚渫（しゅんせつ）と戦い、江戸時代の大規模な新田開発によってつくられたまちで、開発を行った市岡、田中、八幡屋、福崎といった町人の名前が、今も港区の地名に残っています。
- ・明治時代の後期以降、日本屈指の近代港・大阪港を擁する海の玄関口として大きく発展し、特に築港は、大正時代には「東洋のマンチェスター」と言われた大阪の玄関口として繁栄しました。
- ・港区は、大正14年の誕生時には人口が約28万人、現在と同じ区域となった昭和18年には約26万人と、戦前は大阪市内で最も多い人口を誇りました。しかし、わが国屈指の貨物港であり軍事上の重要拠点でもあった大阪港を擁することで、戦争で徹底的に攻撃目標とされ、昭和20年の大阪大空襲では区域のほとんどが焼け野原となり、その直後には枕崎台風による高潮に見舞われ、人口が1万人を下回るという壊滅的な打撃を受けました。
- ・戦後、「大阪市の復興は港の復興から」をスローガンに、大阪市内は大阪港の復興に膨大な投資を行うとともに、港区においては高潮への抜本的な対策として、区内のほぼ全域に2mの盛土を施す、世界でも類のない大規模な「港地区復興土地区画整理事業」が45年もの年月をかけて行われました。その結果、港区は、平坦で街区がわかりやすく、道路が広く公園も多い住みやすいまちに生まれ変わりました。
- ・現在の港区は、東部の弁天町はJR大阪環状線と地下鉄中央線が結節するターミナルであるとともに、中央大通、阪神高速大阪港線が東西に、国道43号、阪神高速西大阪線が南北に交差する交通要衝の地で、文化、商業などの機能が集積しています。中央部は、八幡屋公園に加えて国際競技大会の開催が可能な大阪中央体育館や大阪プールが整備され、世界レベルのスポーツを身近で楽しむことができます。また、西部の築港・天保山周辺は、豊かな歴史に育まれた多彩な文化・観光資源に恵まれるとともに、世界最大級的水族館「海遊館」や、世界第一級のクルーズ客船が入港するなど、国内外からの観光客が訪れるエリアです。2025年大阪・関西万博の開催を機に、活性化が期待されています。
- ・現在の港区の面積は7.86km<sup>2</sup>（24区中15番目）、人口は80,948人（同20番目、令和2年国勢調査）（平成27年国勢調査：82,035人）となっています。



- ・令和2年国勢調査では、大阪市の人口は、平成27年の調査から6万1千人(2.3%)増加し、平成12年の調査以降増加が続いていますが、増加している区は市内中心部に集中し、周辺区は減少しています。
- ・港区の人口は、平成27年の調査から1,087人(1.3%)減少し、24区で8番目の減少率となっています。また、令和2年の港区の高齢化率は27.7%(国勢調査)で、大阪市全体(25.5%)と比べて高齢化が進んでおり、特に市営住宅の多い区内中央部では高齢化が大きく進み、すでに40%を超えている地域もあります。一方で、令和2年の港区の15歳未満の人口は、8,285人(国勢調査)で、平成27年より514人(5.8%)減少しています。
- ・人口減少と少子高齢化が急速に進む中、地域活動の担い手の裾野を広げて、更に豊かなコミュニティを促進して、高齢者がいきいきと住みなれた地域で安心して暮らすことのできる環境づくりや、子どもの学びと子育て世代を応援するまちづくりを進めることが極めて重要です。
- ・なお、平成27年1月に、大阪市として「弁天町駅前土地区画整理記念事業計画」の実施を決定し、世代間交流や子育て支援等を行う公共施設((仮称)区画整理記念・交流会館)を整備するとともに、大阪みなと中央病院を共同事業者として港区の地域医療・災害時医療の拠点機能を形成することとしました。
- ・この(仮称)区画整理記念・交流会館については、幅広い世代が出会い、活動し、その交流が広がる「起点」としての機能を果たすことで、港区に更に豊かなコミュニティを醸成し、将来にわたって活力とうるおいのあるまちづくりに貢献する施設となるよう、区民の皆さんの意見を踏まえながら整備を進めます。



# 港区 人口・世帯数 推移



資料：総務省「国勢調査」（昭和20年は、大阪市統計書に記載されている人口）

令和7年は国立社会保障・人口問題研究所平成30年推計資料

人口	T14	S5	S10	S15	S20	S22	S25	S330	S35	S40	S45
	281,678	362,582	317,725	322,231	8,672	19,375	41,508	71,692	99,053	116,497	110,914
世帯数	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7
	105,777	96,416	92,033	89,900	89,527	87,262	83,191	84,947	82,035	80,948	73,745

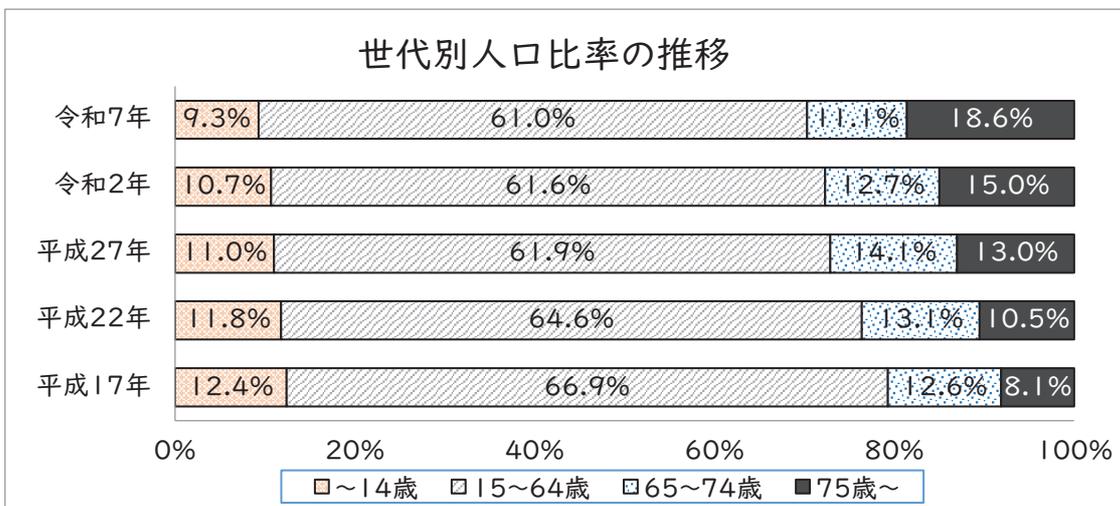
世帯数	T14	S5	S10	S15	S20	S22	S25	S330	S35	S40	S45
	69,730	85,471	71,987	76,071	2,972	5,319	10,401	17,105	26,103	32,631	33,114
世帯数	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	
	33,872	32,926	32,852	34,345	36,804	37,925	37,702	40,713	40,348	42,612	

## 第2章 区の特性と課題

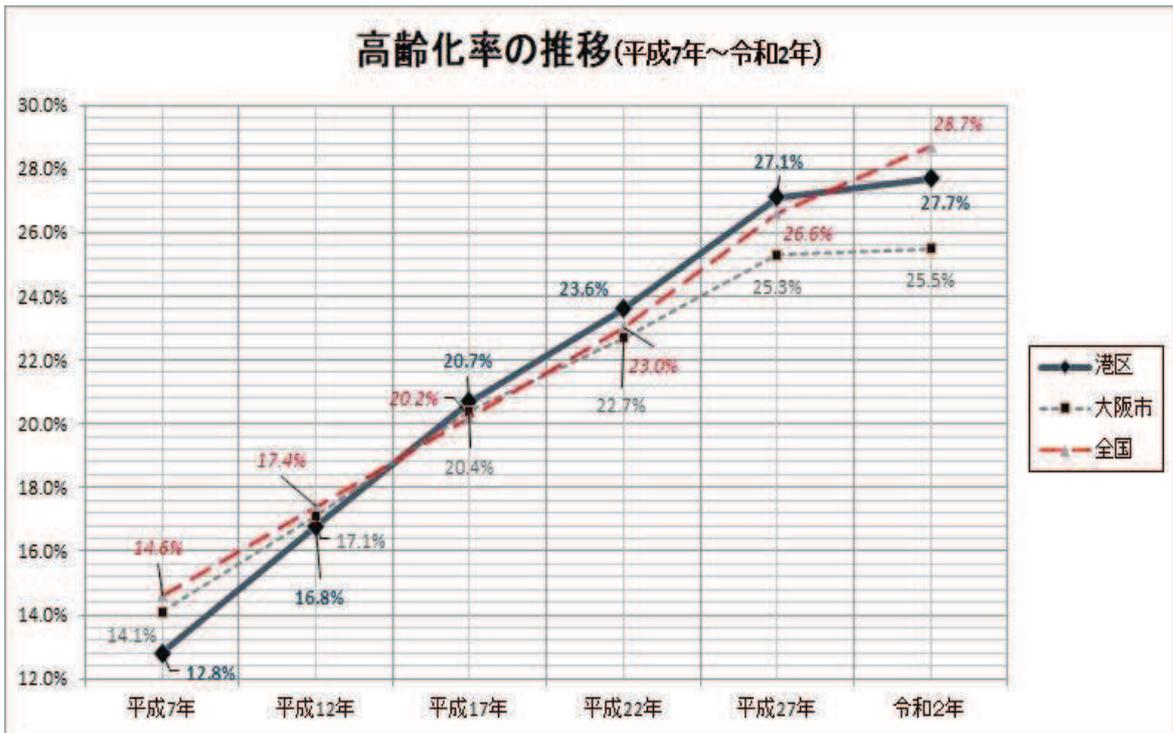
### 1 少子高齢化

- ・令和2年の人口（国勢調査）は80,948人で、市内24区の中では20番目となっています。令和3年12月には人口（住民基本台帳）は8万人を下回り（79,526人）、今後さらなる人口減少が見込まれています。
- ・令和2年の高齢化率は27.7%（国勢調査）で、大阪市全体と比べて高齢化が進んでおり、令和7年には29.7%となる見通しです。特に市営住宅の多い区内中央部では高齢化が大きく進んでおり、住みなれた地域で元気な高齢者がいきいきと活動し、介護や支援を必要とする高齢者が安心して暮らすことのできる環境づくりが増々重要になっています。
- ・15歳未満の人口の比率は、少子化の進展により令和2年は10.7%でしたが、令和7年には9.3%と更に減少する見通しとなっています。子育て世代が魅力を感じ、住んでみたいと選ばれる子育て・教育環境の充実、外国人住民との共生を進めることが重要になっています。

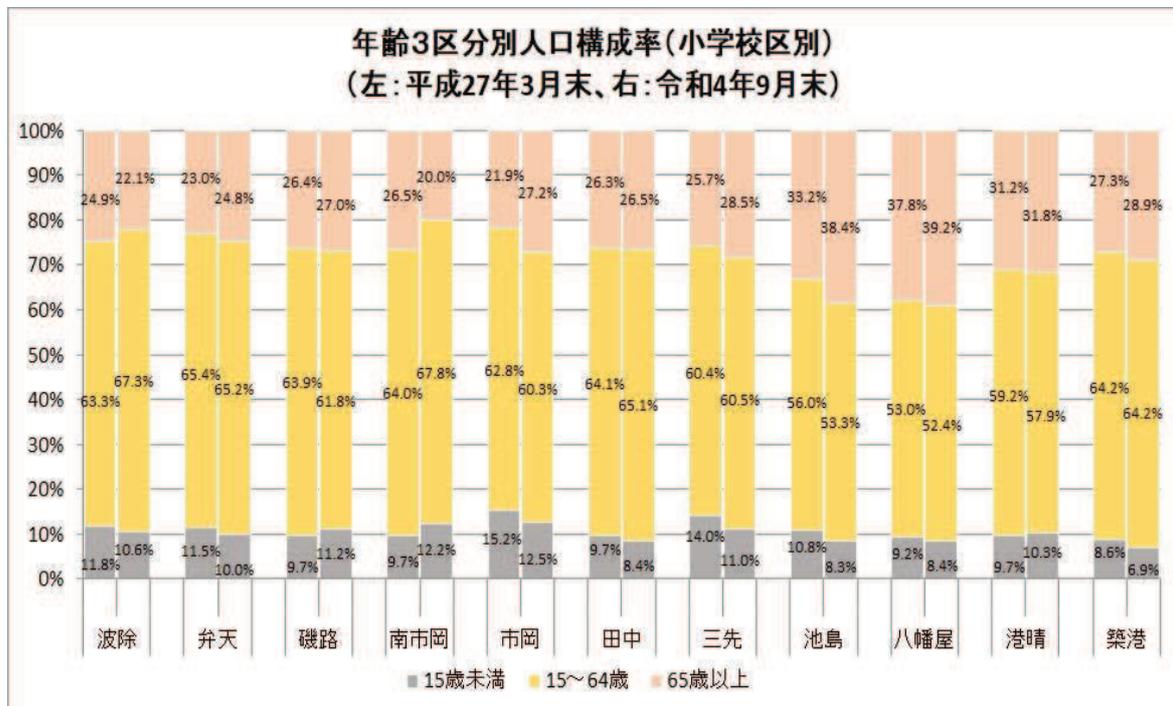
		計	内訳(割合)		
			15歳未満	15~64歳	65歳以上 (高齢化率)
港区	平成27年	82,035人	11.0%	61.9%	27.1%
	令和2年	80,948人	10.7%	61.6%	27.7%
	令和7年	73,745人	9.3%	61.0%	29.7%
大阪市	平成27年	2,691,185人	11.1%	63.6%	25.3%
	令和2年	2,752,412人	11.0%	63.5%	25.5%
	令和7年	2,663,262人	10.2%	63.5%	26.3%



資料：令和2年以前は総務省「国勢調査」、  
令和7年は国立社会保障・人口問題研究所資料平成30年推計資料



資料：総務省「国勢調査」

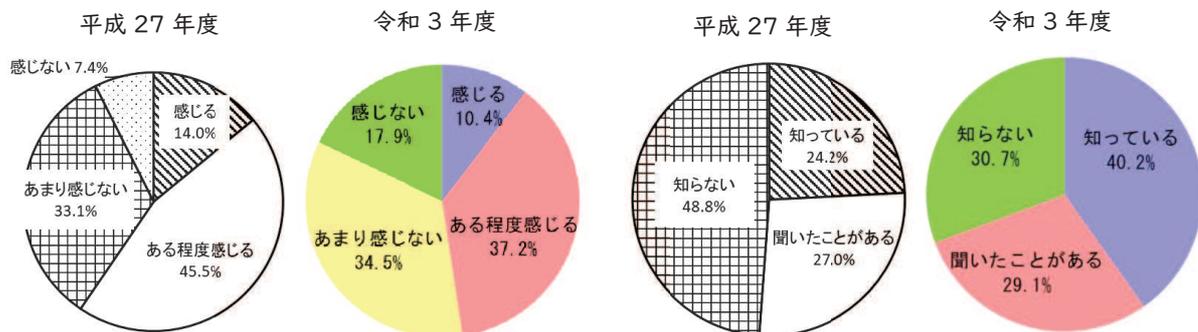


資料：住民基本台帳

平成30年4月 南市岡3丁目校区変更(市岡→南市岡)

## 2 地域コミュニティ

- ・これまで幾度も大型台風がもたらした高潮被害を克服し、戦後、世界でも類のない大規模な盛土方式の土地区画整理事業で復興した港区は、住民どうしのきずなや助け合いの気持ちが強く地域活動が活発なまちです。また、神社などの祭りも大変盛んで、世代を越えて楽しみながら、地域のコミュニティが形成されています。一人暮らしの高齢者や子どもを見守る活動などにも各地域で熱心に取り組まれています。
- ・港区では、昭和57年に区内中学生の深刻な非行問題が生じ、地域団体やPTAを含め、多くの区民が危機感を持ったことにより、区を挙げて、地域ぐるみで子どもの健全育成に取り組み、その活動は全市に広がりました。現在も中学校区単位や小学校区単位で「青少年育成推進会議」や「はぐくみネット」に取り組むなど、地域総がかりで青少年を育む活動が活発に行われています。
- ・しかしながら、少子高齢化や核家族化が進むなかで、港区でも地域活動の担い手が高齢化するとともに、一部の担い手に役割が集中するなど、負担感が大きくなり、後継者不足につながっています。
- ・また、新たな住民が増加し、地域活動への参加・参画を望まない人も増えるなど、コミュニティ意識の希薄化が懸念されています。
- ・平成24年度に全小学区に地域活動協議会が形成されて以降、地域団体間の協力・連携が深まるとともに、より幅広い住民の参画が広がりつつあり、それぞれの地域の実情にあった活動が展開されてきています。
- ・本格化する少子・高齢化社会の中で、区民一人ひとりが地域に愛着と関心を持ち、幅広い世代の人々が地域活動にかかわり、地域の課題を共有しながらその解決に取り組む「区民主体の持続可能なまちづくり」が今後より一層求められています。

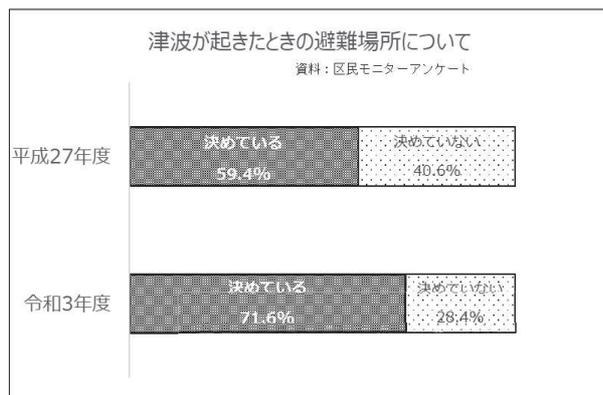


【区民モニターアンケートにおいて、『お住まいの地域では日頃からご近所どうして「声かけ」「見守り」「助け合い」「支え合い」が行われていると感じる』と回答した割合】

【区民モニターアンケートにおいて、「地域活動協議会を知っている」と回答した割合】

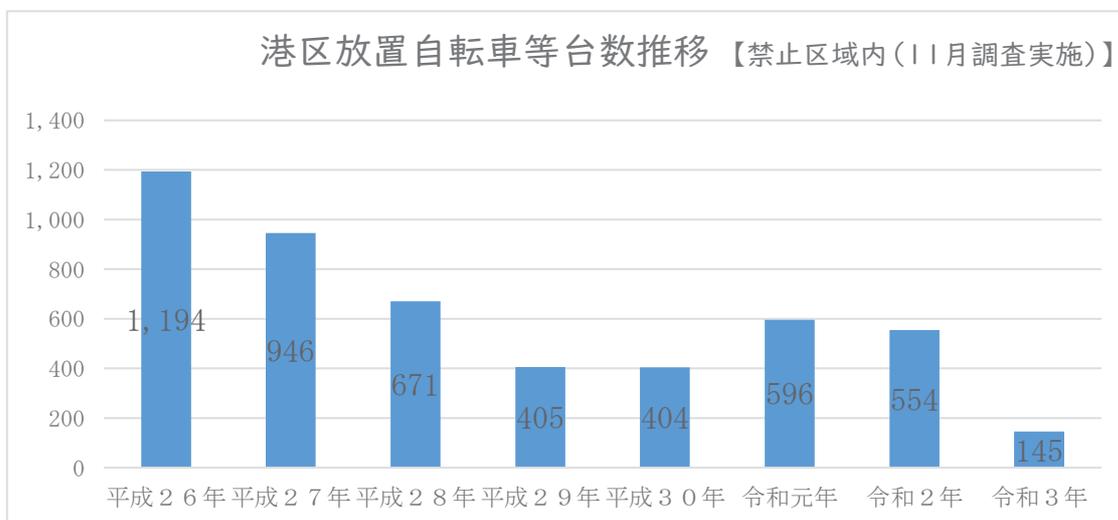
### 3 まちの安全・安心

・港区は三方を海と川に囲まれており、津波や高潮の被害を受けやすい地勢にあります。これまで、津波を伴う海溝型地震への対策を進めてきましたが、なお一層の対策の強化が必要です。特に津波から身を守るためにはいち早く避難することが大切であり、日頃から避難場所や避難経路を確認する等、逃げ遅れを防ぐ必要があります。



・平成27年の区内における街頭犯罪発生件数は、市内24区で5番目に少ない568件で、市全体の街頭犯罪発生状況が減少傾向の中、港区はここ数年、横ばい状況にありましたが、令和3年の区内における街頭犯罪発生件数は前年から67件少ない215件でした。

・戦後、区域ほぼ全域にわたり土地区画整理が行われた港区は、街区がわかりやすく平坦で、みなと通、中央大通の幹線道路には自転車道が整備されるなど、自転車があれば大変便利に生活できるまちです。一方で、大阪府や大阪市と比べても自転車に関する事故が多く発生するとともに、駅周辺を中心に放置自転車も数多く見られ、無施錠の自転車の盗難も多いことから自転車の適正利用を促進する必要があります。



※平成30年までは 2月調査実施

## 4. まちのにぎわい

- ・港区では、区内を東部（弁天町駅周辺）、中部（朝潮橋駅周辺）及び西部（大阪港駅周辺）の3つのエリアに区分して、それぞれのエリアの特色を活かしたまちづくりを進めています。
- ・東部エリアの中心に位置する弁天町は、鉄道や幹線道路の交通結節点であり、文化、商業機能等が集積しています。
- ・中部エリアに立地する八幡屋公園は、区内で最も大きな公園であり、公園内には国際レベルの競技が可能な大阪市中央体育館や大阪プールがあります。
- ・西部エリアに立地する築港・天保山周辺は、世界最大級の水族館「海遊館」やマーケットプレイス、大観覧車などの国内有数のアミューズメント施設のほか、江戸時代からの歴史を有する「天保山」や弘法大師ゆかりの「高野山真言宗準別格本山」の築港高野山、住吉大社の「別院」の港住吉神社、大正時代の繁栄を伝える「築港赤レンガ倉庫」、夕陽の美しい中央突堤・「ダイヤモンドポイント」、世界第一級のクルーズ客船が入港する天保山岸壁など、多彩で魅力ある歴史・文化・観光資源に富んでいます。
- ・区内には卸売・小売業の事業所や飲食店が多く立地していますが、その数は年々減少しています。一方で、区内の商店街では、地域と連携したにぎわいイベントなど、個性ある取組も行われています。
- ・ものづくり企業は、後継者不足や経済情勢の変化などで事業所数が減少する一方で、優れた技術と柔軟なアイデアを新たな製品開発につなげる事業者間連携など、町工場のもつ力を発揮する取り組みが進められています。
- ・このように、港区が持つ魅力ある資源、地域や事業者など人の力を活かして、まちのにぎわいを生み出し、地域の活性化を図る必要があります。



大阪市中央体育館

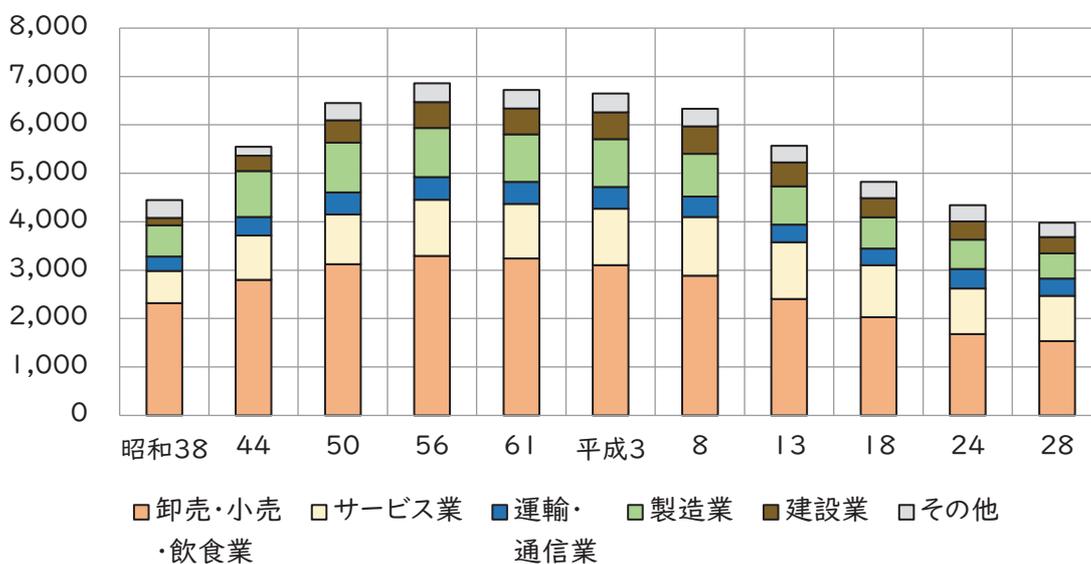


海遊館



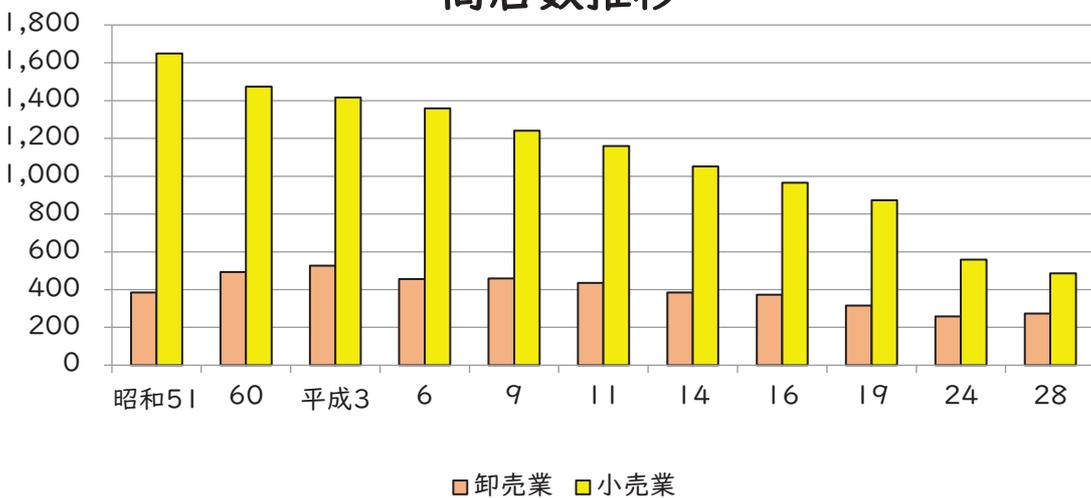
海から見た港区ベイサイドの風景

## 事業所数推移



資料: 経済省産業省 平成19年までは「商業統計」、平成24・28年は「経済センサス」

## 商店数推移



資料: 経済省産業省 平成19年までは「商業統計」、平成24・28年は「経済センサス」